

2027



Global Human Sciences
神戸大学国際人間科学部

学部長からのメッセージ	2
国際人間科学部での学び	4
グローバル教育	6
施設とサービス	8
学部を構成する4学科	9
カリキュラム	18
教員紹介	22
国際交流	28
進路実績	30
募集人員、学生支援	32
アクセス	33

沿革

発達科学部・人間発達環境学研究科

1874年（明治7年）	兵庫県師範伝習所設置
1949年（昭和24年）	兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、 神戸大学教育学部設置
1981年（昭和56年）	神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
1992年（平成4年）	神戸大学教育学部を改組し、 神戸大学発達科学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学発達科学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、 神戸大学大学院人間発達環境学研究科設置

国際文化学部・国際文化学研究科

1923年（大正12年）	官立姫路高等学校設立
1949年（昭和24年）	神戸教養課程設置
1963年（昭和38年）	神戸大学教養部設置
1992年（平成4年）	神戸大学教養部を改組し、 神戸大学国際文化学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学国際文化学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、 神戸大学大学院国際文化学研究科設置

国際人間科学部

2017年（平成29年）	神戸大学国際文化学部と発達科学部を再編統合し、 神戸大学国際人間科学部を設置
--------------	---

アドミッション・ポリシー

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

国際人間科学部の求める学生像

1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

神戸大学国際人間科学部
Global Human Sciences



人という始源、地球という舞台。



学部長からのメッセージ

佐藤春実 教授
国際人間科学部長

21世紀になって、情報通信技術の進化や交通手段の発達により、人や物および情報の国際的移動が大きく活発化し、人も国も外国と無縁ではいられない時代となっています。

このようなグローバル化が急速に進む世界の中で、私たちの身の回りでもさまざまな課題が浮かび上がっています。地球的な資源・エネルギーの制約や環境の悪化、富の偏在などによる分断や格差の拡大、少子高齢化などの人口問題など個人や一国では解決できない課題が地球上のいたるところに存在しています。

これらの中には、時に関係者・関係国の利害が大きく対立する問題も数多く、こうした問題には、さまざまな人々が地球規模で境界を越えて協働することの重要性が認識されつつあります。そして、その動きをより確かなものにするため、複眼的な視点と柔軟な姿勢をもち国内外で地球的課題（グローバル・イシュー）に積極的に関わる人々の養成が不可欠といわれます。

そうした中、神戸大学は2017年に国際人間科学部を創設しました。国際人間科学部では、深い人間理解と他者への共感をもって地球的課題と向き合い、多様な人々が共存する「グローバル共生社会」の実現に向けて貢献する「協働型グローバル人材」を育成することを目的としています。国際人間科学部は、神戸大学の国際文化学部と発達科学部を再編統合して作り上げた学部です。2つの学部はそれぞれ「異文化理解」「人間発達」をキーワードとして四半世紀前に設置された学際系学部です。この2つの学部で醸成された強みと特色を最大限に活かし、国際人間科学部は新たな時代に向けて「協働型グローバル人材」の育成につとめています。本学部は、未来への道を模索すべく教員と職員が学生諸君と一体となって実践的な学問プロジェクトに挑戦し邁進しています。熱意あるみなさんが、この学問共同体に参加されることを強く期待します。

グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（「グローバルイシュー（global issues）」と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。

Department of Global Cultures グローバル文化学科

国境を越えたコミュニケーションを推進できる
リーダーシップを備えた人材を養成する

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

Department of Human Development and Community 発達コミュニティ学科

人間の発達とそれを支えるコミュニティの
実現に取り組む人材を養成する

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

国際人間科学部の構成

Department of Environment and Sustainability 環境共生学科

グローバル共生社会を支える環境を創り出す
文理融合型人材を養成する

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

Department of Child Education 子ども教育学科

現代社会の文化的多様性を尊重した
子ども教育に取り組む人材を養成する

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）
学士（教育学）（Bachelor of Education）

学びの特色

1 グローバルな発信と 課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、ICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための様々な基礎科目や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を習得します。

2 実践的なグローバルを体験する (詳細は、p.6へ)

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム(GSP)」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外または国内での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定してフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

3 多角的視点から 専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングcommonsなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業(講義、演習、実験・実習)においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。

Messages From Students 先輩からのメッセージ

私は、移民や産業化の進展によって不安や分断が生じる現代社会の問題を政治哲学の視点から考えるゼミに所属し、政治哲学者ジョン・ロールズの思想に注目しています。ロールズは国内社会の正義を論じた後、その構想を国際社会へと拡張しました。そこでは何が新たに加わり、構想がどのように変化したのか。原典や関連文献を読みながらこの変化を追うことで、国際正義のあり方に新しい示唆を得られないか探究しています。将来は国際正義を学んだ経験を活かし、異なる背景をもつ海外の人々と対等に向き合い協働できる仕事に携わりたいと考えています。

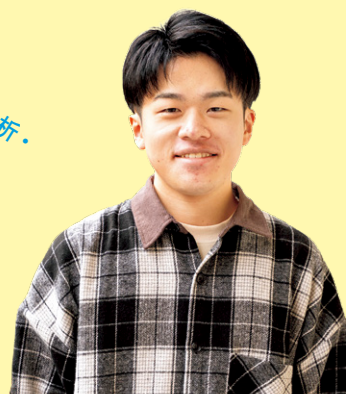
国際社会における公正を考える

米田風香
グローバル文化学科
現代文化システム系
プログラム
4年



自身の関心の研究と統計解析・
データサイエンス

小西竜生
発達コミュニティ学科
心の探求プログラム
4年



私は対人関係や心の問題に興味があり、心の探究プログラムを選択しました。大学の授業では幼少期から老年期までの発達や課題、障害者支援まで幅広く学ぶことができます。現在はゼミ活動に最も注力していて、対人交流場面における「Post-Event Processing」という現象に関心を持ち、そのメカニズムを解明する研究に取り組んでいます。研究に関連して、統計解析のためのR言語の学習にも力を入れています。今後はゼミの仲間と議論を深め、多角的な視点を養い、将来は統計解析・データサイエンスのスキルを活かして、社会に貢献したいと考えています。

1年次		2年次		3年次	4年次	進路
基礎能力を得る		専門知識を得る		研究に取り組む		
		応用力と実践力を得る				
教養科目 「複眼的に思考する」「多様性と地球的課題を理解する」「協働して実践する」能力を伸ばすための科目						
学部共通科目	グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP） 他者と協働しつつリーダーシップを発揮する知的行動力を身に付けるための実践型教育プログラム			→詳細はp.6		
	【基礎科目】 協働型グローバル人材として活躍するために不可欠な基礎的能力を向上させるための科目 【発展科目】 さらに洗練されたグローバルリテラシーを身に付けるための科目			卒業研究		
学科専門科目	【共通科目】					
	【コア科目】 各学科において、専門性を深く学修するために必要な基礎的知識を得るための科目 【展開科目】 各学科において、より発展的な専門知識を修得し、実践力、問題解決能力を修得するための科目					
大学院進学 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科 その他の国内外の大学院						
就職 一般企業 公務員 国際機関 教員 NPO・NGO 等						

グローバル文化学科
発達コミュニティ学科
環境共生学科
子ども教育学科

取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種（英語）、高等学校教諭一種（英語）
発達コミュニティ学科	学芸員、社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格、公認心理師受験資格（注1）	中学校教諭一種（音楽、美術） 高等学校教諭一種（音楽、美術）
環境共生学科	学芸員、社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種（理科、数学、家庭、社会） 高等学校教諭一種（理科、数学、家庭、地理歴史、公民）
子ども教育学科	学芸員、社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種、小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

（注1）「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

幼少期から抱く自然環境への関心を原点到、入学後は特に「人」に着目した生態系保全に関心を抱きました。現在は環境経済学のゼミに所属し、心理学の観点から生態系保全の「意識と行動の乖離」の解明に取り組んでいます。学習環境について、本学部では学際的なシラバス設計や柔軟な研究指導により分野を問わず知的関心を追求する風土が整っており、多様な視点を持つ学生との議論は常に学習の刺激となっています。今後もこの学際的な学びを活かし、分野の枠組みに捉われない生態系保全の手法の確立、その実現に邁進したいと考えています。

分野に捉われない
生態系保全の追求

蔭山剛大

環境共生学科
生活共生科学プログラム
4年

普通の教育を捉え直す

美齊津 七萌

子ども教育学科
4年

義務教育は日本人の多くが経験するものですが、その内容は常に同じではありません。時代や地域によって様々な個性があります。現在の教育はまだまだ伸び代があります。より良いものを作っていくには、「普通」を疑える別の視点が必要です。しかし「今」を生きる私たちは、自分の経験、自分の受けてきた教育が「普通」になってしまいがちです。「普通」と異なる教育を学ぶ事は、私に「普通」を疑える新たな視点を与えてくれます。獲得した複数の視点から教育を捉え直し、後世に残せる教育実践を、将来行っていきたいと思っています。

Global Education グローバル教育

本学部生全員が国内外でのフィールド学修に参加

Global Studies Program (GSP) グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が国内外でのフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外のフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。



1 グローバルイシューの現場での実践的な取り組み

「グローバルイシュー概論・演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもとづき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の「現場（フィールド）」を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

2 多様なプログラム

GSPでのフィールド学修の場所には、海外と国内が用意されています。学生は、自らの学修計画に応じて、海外、国内のいずれか一方を選択し、さらに海外、国内それぞれのもとにある多数のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムに参加します。

※国内のプログラムは、グローバルイシューに関連する海外渡航を伴わない国内でのフィールド学修です。オンラインで海外とつなぐプログラムを含みます。

3 学生一人一人の専門性に合わせた学修指導——GSPオフィス※

GSPでの学修を支援するために、GSPコーディネーター教員が、事前・事後学修や、危機管理オリエンテーション等、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。事後学修としてはさらに、各学科の科目において、GSPの振り返りを含むグローバルな内容の授業が実施されます。

※GSPオフィスについてはP8をご覧ください。

Global Experiences グローバル体験

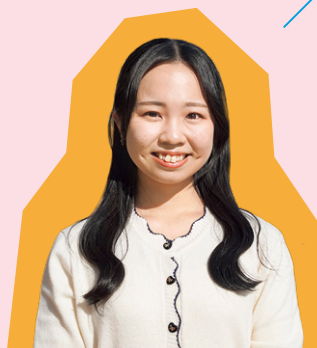


意見を交わす
楽しさ

【参加プログラム】
キルギス スタディーツアー：
国際協力の現場を訪ねる（キルギス）

井本純平
グローバル文化学科 2年

僕はこのプログラムを通して、意見を交わす楽しさを知りました。キルギスの現地学生や同じプログラムに参加する日本人学生と意見を交わすことは、今まで言語化してこなかった自分の考えを整理するきっかけ、また自分と異なる考えに触れて自分の考えを改めるきっかけになりました。さらに、「こういうこともあるかもしれない」と想像するきっかけにもなりました。僕は、相手の考えや置かれた状況を想像することが、異文化理解への第一歩だと考えます。今後も、多様な背景を持つ人々と意見を交わす中で、想像する力を高めていきたいと思っています。



ドイツ留学で深めた
音楽学と多文化理解

【参加プログラム】
部局間交換留学：
ライプツィヒ大学（ドイツ）
EDUCULT スタディーツアー：
ウィーンで学ぶ文化政策、
アートマネジメント、
芸術教育（オーストリア）
舞台芸術の現在を現場の視点から学ぶ：
神戸市民文化振興財団（国内）

田中 凜
発達コミュニケーション学科 4年

私は幼い頃から音楽に親しみ、現在は音楽学を専攻しています。クラシック音楽の本場ドイツでの留学生活は、毎日刺激に満ちたものでした。音楽学の講義を受ける一方、現地の学生主体のオーケストラにも所属し、充実した日々を送りました。2年次にはウィーンでの文化芸術研修や神戸市民文化振興財団でのインターンシップに参加し、芸術や音楽の在り方を多角的に学びました。今後はこれらの経験を生かし、多様な文化の中で異なる価値観を尊重し合える柔軟な姿勢を大切にしながら、芸術を通して育んだ感性と視野を社会に生かしたいと考えています。

[GSPの流れ]

GSPは、事前学修、プログラム参加（海外実施GSコースと国内実施GSコース）、事後学修の3つのステージで構成されます。



海外実施GSコース

交換留学、海外スタディツアー、海外語学研修、サマースクールなどのいずれかに参加し、海外の現地において、**海外フィールド学修**を行います。

交換留学

1年もしくは半年の協定校（p.28－29参照）への留学中に**海外フィールド学修**を行います。交換留学では、神戸大学に学費を納めることで、協定校の学費・入学金が免除されます。また、協定校で修得した単位を神戸大学の単位として算入することができます。

海外スタディツアー

事前学修で修得した専門的知識を**海外フィールド学修**の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組みます。

海外語学研修、サマースクール

海外の大学などで語学研修やサマースクールに参加することにより国際的な視野を獲得すると共に、**海外フィールド学修**を通じて、比較文化的・多角的な視点からグローバルイシューに取り組みます。

海外フィールド学修の例

- ★ イタリアの歴史・文化遺産と都市景観・観光に関する協働学修（イタリア）
- ★ 非破壊機材で農産物分析をする（タイ）
- ★ アートマネジメント・芸術教育を学ぶ（オーストリア）
- ★ アカデミック英語研修（イギリス）
- ★ 中国語と台湾文化（台湾）

国内実施GSコース

事前学修で修得した専門的知識を**国内フィールド学修**の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組みます。このコースは、オンラインで海外とつなぐ**オンラインプログラム**を含みます。ただし、海外渡航は伴いません。

国内フィールド学修の例

- ★ 専門家と市民の対話と協働の場づくり、地域の科学教育支援（神戸市）
- ★ 外国人児童の学習支援と多文化共生を学ぶ（神戸市）
- ★ 離島の文化遺産・環境・観光・地域振興を学ぶ（奄美群島）
- ★ 寒冷地コミュニティにおけるウインタースポーツとまちおこし（北海道）

オンラインプログラムの例

- ★ 海外の学生や教師との教師教育に関する合同研修（フィンランド）
- ★ 海外の大学生との合同研修で芸術文化を学ぶ（ハンガリー）

（注1）海外、国内フィールド学修は、他にも多数のプログラムが用意されています。

（注2）個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度やJASSOの支援制度を活用することができます。

国内外で様々な体験をした先輩からのメッセージを紹介



英語を話すのって
楽しい！

【参加プログラム】
テネシー大学の学生と
国際共修で学ぶ（オンライン）

圓井楓人
環境共生学科 2年

GSPのプログラムに参加し、まず実感したのは、自分の英語が想像以上に伝わるということでした。私は昔から英語は好きでしたが、話すことに苦手意識がありました。しかし、テネシー大学の学生と交流するうちに自信をもって会話できるようになりました。ペアの学生が教会でゴスペルを歌うアルバイトをしていると教えてくれたことが、日本文化とアメリカ文化の差異を感じ特に印象に残っています。その学生とは、今でも時折LINEで連絡を取っています。今後は国際共修チューターへの応募や留学型GSPへの参加を通して、外国人との関わりをさらに深めたいです。



広い視野で
子どもの成長を支える

【参加プログラム】
グルノーブル・アルプ大学：
フランス語（フランス）
不登校の学校復帰支援プログラム：
伊丹市立総合教育センター（国内）

武政遥花
子ども教育学科 2025年度卒業

私は、GSPのプログラムに参加して、日本の教育に対する考え方が寛容し、広がっていく経験をしました。海外研修では、現地の方との対話を通して日本とは異なる教育観に触れ、国内研修では学校以外で学習や好きなことにひたむきに取り組む子どもたちと、その姿に寄り添い支える大人たちに出会いました。これらの経験から、学校で学び過ごす意義を見つめ直すとともに、学校外での子どもの成長にも価値があることを強く意識するようになりました。卒業後は小学校教員として、子ども一人ひとりの生き方を尊重し、その成長にそつと色を添えられる教師になりたいです。

Facilities & Services 施設とサービス

鶴甲第1キャンパス



グローバル文化学科

鶴甲第2キャンパス



発達コミュニティ学科／環境共生学科／子ども教育学科

ラーニングcommons



ラーニングcommons（Learning Commons）とは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングcommonsが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

図書館



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスに総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスに人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースが充実しています。また、ガイダンス、講習会、各種イベントを通して、データベースの使い方やレポートの書き方など、大学生活に役立つスキルを演習形式で学ぶこともできます。

交流スペース



2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」（鶴甲第1キャンパス）、「Global Human Science Cafe」（鶴甲第2キャンパス）が置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めることができます。

ICT関係の設備



国際人間科学部のほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。神戸大学では、高度情報化社会において情報通信技術の十分な活用能力を有する人材を育成し、それらの技術を活用した教育の提供を目的に、パソコンの必携化を実施しています。学修支援システム（BEEF+等）を利用した双方向授業、レポートの作成・提出、講義資料の閲覧、電子雑誌・図書の閲覧等にパソコンを活用します。

GSPオフィス



国内外でのフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、目的を達成できるよう、学業と海外生活の両面についてアドバイスを行います。個別プログラムに関する最新情報の提供や危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。

GSPオフィス教員

室長	辛島理人 准教授
副室長	高見和至 教授
統括コーディネーター	正楽 藍 准教授
コーディネーター	武田和代 助教

学部を構成する4 学科



Department of Global Cultures

グローバル文化学科

10

Department of Human Development and Community

発達コミュニティ学科

12

Department of Environment and Sustainability

環境共生学科

14

Department of Child Education

子ども教育学科

16





Department of Global Cultures

グローバル文化学科

国境を越えたコミュニケーションを推進できる リーダーシップを備えた人材を養成する

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」の4つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

予想される進路

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業の他、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

取得可能な学位

学士（学術）（Bachelor of Arts）



学科情報



卒業論文



学びの特色

1

高い専門性とリーダーシップを
備えた人材を養成する

本学科の軸となる4つの柱「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。

2

多彩な
学際的カリキュラムを通して、
専門的能力を身に付ける

それぞれの専門的能力を、受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用して修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、3年後期から4年前期にかけて「グローバル文化特別演習」において指導教員のきめ細やかな指導により学修を深め、4年次に学修の総仕上げとして「卒業研究」を行い、卒業論文を作成します。

3

「留学したい」を後押しする、
長期留学をサポートする
カリキュラム

選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

地域文化系プログラム

21世紀の世界に存在する多様な文化や価値観を地域別に研究します。また、そうした地域の文化や価値観がどのように形成され、持続・変容してきたのかを、さまざまな学問アプローチから捉え、比較的・相対的な視点から地域文化を理解する力を身に付けます。

【学問領域】

日本、ヨーロッパ、ロシア・スラブ、北アメリカ、中・南アメリカ、東アジア、東南アジア、オセアニアなどの地域研究

現代文化システム系プログラム

近代的な制度や思考の枠組みが根底から揺らぐなかで、グローバルな規模で揺るがる今日的な問題群に焦点を当て、現代世界を動かしている社会・文化のシステムを多角的に分析し、現代という時代について批判的に洞察する力を身につけます。

【学問領域】

社会思想史、科学史、倫理学、社会学（ジェンダー、セクシュアリティ、メディア、移民・難民、貧困）、美学、美術史、舞台芸術論、音楽研究、文学、芸術政策、芸術実践論

異文化コミュニケーション系プログラム

社会経済のグローバル化に伴い、異文化間相互の分裂と統合が、国内および国境を越えて拡大しているという世界の動きを踏まえ、異文化間コミュニケーションのあり方を明らかにし、異なる文化が対話可能となるような方法を考察する能力を身に付けます。

【学問領域】

文化人類学、観光学、移住・移民研究、国際関係論、比較政治学、外交・対外政策分析、現代アメリカ政治、比較公共政策、グローバル・ガバナンス、国際制度、政治制度論、ドイツ語圏研究、中東政治、紛争予防

言語情報コミュニケーション系プログラム

言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点を発見し解析する能力や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

【学問領域】

言語学、日本語教育、外国語教育、認知心理学、認知神経科学、非言語コミュニケーション、ITコミュニケーション、ソーシャルコンピューティング、情報科学、コミュニケーションデザイン



Department of Human Development and Community

発達コミュニティ学科

人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に 取り組む人材を養成する

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ（多様な人々が協働する社会）を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

予想される進路

卒業後の進路として、自治体や企業における組織・人事戦略コンサルタント、家庭裁判所調査官、地域コミュニティ創生支援事業・人材育成事業の指導者、行政や自治体の専門職、健康関連企業での専門職、国際連合機関（ユネスコ、世界保健機関等）、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位

学士（学術）（Bachelor of Arts）



学科情報



卒業論文



学びの特色

1

広い基礎知識を学び、
学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2

教育プログラムを通して、
専門的能力を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3

国内外の海外研修、
フィールドワークを通じて
実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題に人々がコミットしてゆくための方法、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、あらゆる人の多様なエンパワメントを通してグローバルな社会課題が解決される専門的方法論を身につけます。

〔学問領域〕

ESD論、社会教育・生涯学習論、障害者共生支援論、ジェンダー論、福祉教育・ボランティア学習論、臨床哲学、多文化学習論

ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

〔学問領域〕

音楽文化史、民族音楽学、即興など演奏法・演奏論、音楽美学、音楽教育、音楽社会学、音楽理論、音楽音響制作、音楽表現学

心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身につけます。

〔学問領域〕

臨床心理学、芸術療法、スクールカウンセリング、臨床心理検査法、発達臨床心理学、生涯発達心理学、睡眠心理学、教育心理学、人格心理学、健康心理学、障害者心理学

アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化・芸術について多面的に理解・探究する総合的能力、創造的実践的な専門能力を身に付けます。

〔学問領域〕

舞踊学、絵画表現、ファッション文化論、社会情報学、認知科学、パフォーマンス科学、認知身体性科学

アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康やエイジング、運動行動、スポーツ活動などについて原理や方法を理解・分析する基礎的能力や創造的・実践的な専門的能力を身につけます。

〔学問領域〕

生活習慣と心身の健康、社会心理学、社会老年学、加齢の健康行動科学、加齢の認知心理学、加齢の身体運動科学、応用生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツ技術論、運動心理学、スポーツ社会学、体育・スポーツ史、応用身体運動科学、バイオメカニクス



Department of Environment and Sustainability

環境共生学科

グローバル共生社会を支える環境を創り出す 文理融合型人材を養成する

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組む行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

予想される進路

卒業後の進路として、環境保全、都市開発、街づくり、農村計画、防災政策などに携わる国家・地方公務員、インフラ、エネルギー、ディベロッパー、各種メーカーなどの企業、NPO、NGO、中学校・高等学校教員、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位

学士(学術)(Bachelor of Arts)



学科情報



卒業論文



学びの特色

1

広い基礎知識を学び、
学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2

教育プログラムを通して、
専門的能力を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3

海外研修、フィールドワークを
通して、エキスパートとしての
実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

環境自然科学プログラム

地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。

【学問領域】

環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境

環境数理科学プログラム

環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。

【学問領域】

数理モデル、現象解析、数理統計、計算機科学

生活共生科学プログラム

日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。

【学問領域】

衣環境論、食環境論、アプライアンス環境論、ライフスタイル論、環境経済学、地域環境資源論、環境保健学、緑地環境論、都市生態論、里山保全論

社会共生科学プログラム

文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

【学問領域】

社会環境思想、政治経済環境史、社会保障、国際関係、途上国開発、地域社会、地域研究、環境地理学



Department of Child Education

子ども教育学科

現代社会の文化的多様性を尊重した子ども教育に 取り組む人材を養成する

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っていきます。

予想される進路

卒業後の進路として、小学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員、公務員（教育行政職）、（実務経験を経た後）教育に関わる国際機関職員、教育関連企業、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位

学士（学術）(Bachelor of Arts)

学士（教育学）(Bachelor of Education)



学科情報



卒業論文



学びの特色

1

幅広い基礎知識を得て
方向性を選択する

1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2

コースごとの学修を通して、
高い専門性を身に付ける

将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3

理論と実践の往還を通して、
エキスパートとしての
実践力・応用力を鍛える

大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターンシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

学校教育学コース

主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

〔学問領域〕

学校教育学、教育内容・指導論、特別支援教育学、障害児支援学

乳幼児教育学コース

主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

〔学問領域〕

乳幼児教育学、保育内容・指導論、乳幼児心理学

グローバル文化学科

		1年次	2年次	3年次	4年次
科目	教養	基盤系 人文系 社会系 自然系 総合系 外国語系 健康・スポーツ科学系			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）		
	基礎・発展科目	【基礎科目】 初年次セミナー 国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバウメント論 グローバル共生社会論 【発展科目】 Test Preparation 国際コミュニケーション演習 A、B	【発展科目】 フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	【発展科目】 外国語実習 A、B インターンシップ実習 A、B フィールドワーク実習 A、B	
学科専門科目	共通科目	情報リテラシー演習1、2 Academic Skills 情報科学概論 地域文化概論 異文化コミュニケーション概論 現代文化システム概論 言語情報コミュニケーション概論	Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication	Study on Global Cultures English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes	
	コア・展開科目	【コア科目】 日本社会文化論 東アジア政治社会論 環大西洋文化論 【展開科目】 地域文化論基礎演習 I	【展開科目】 日本思想文化論 日本文化交流論 日本メディア文化論 日本歴史文化論 オセアニア社会文化論 東アジア社会文化論 東南アジア社会文化論 東南アジア政治文化論 アメリカ文化論 イギリス社会文化論 ヨーロッパ社会文化論 越境文学論	【展開科目】 メディア論 社会調査法 A、B 地域文化論発展演習 II グローバル文化特別演習 I	【展開科目】 グローバル文化特別演習 II 卒業研究
		【コア科目】 文化人類学 越境文化形成論 国際関係論 【展開科目】 異文化コミュニケーション論 基礎演習 I	【展開科目】 環境経済学 福祉社会環境史 地域社会共生論 異文化コミュニケーション論 基礎演習 II 異文化コミュニケーション論 発展演習 I 越境文化交流論 越境社会共生論	【展開科目】 社会調査法 A、B 異文化コミュニケーション論 発展演習 II グローバル文化特別演習 I	【展開科目】 グローバル文化特別演習 II 卒業研究
		【コア科目】 現代社会理論 芸術環境創造論 近現代思想文化論 【展開科目】 現代文化システム論 基礎演習 I	【展開科目】 コミュニティと表象 シアトリカル・アート論 コミュニティ・ジェンダー論 環境経済学 生活空間計画論 社会環境思想史 福祉社会環境史 現代文化システム論基礎演習 II 現代文化システム論発展演習 I 近現代社会思想論 近現代倫理思想論 近現代科学思想論 近現代芸術理論	【展開科目】 メディア論 社会調査法 A、B 現代文化システム論 発展演習 II グローバル文化特別演習 I	【展開科目】 グローバル文化特別演習 II 卒業研究
		【コア科目】 言語構造論 非言語コミュニケーション論 現代 IT 入門 【展開科目】 心理学の基礎と歩み （心理学概論） 言語情報コミュニケーション論 基礎演習 I	【展開科目】 第二言語習得論 言語機能論 コミュニケーション表現論 言語社会論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 コミュニケーション比較論 認知コミュニケーション論 （知覚・認知心理学） ITコミュニケーションデザイン 社会システム科学 データマネジメント 統計情報処理 知覚と行為（知覚・認知心理学） 生活空間計画論	【展開科目】 言語情報コミュニケーション論 発展演習 II グローバル文化特別演習 I	【展開科目】 グローバル文化特別演習 II 卒業研究

（注）2年次後期の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

発達コミュニティ学科

		1年次	2年次	3年次	4年次
科目	教養	基盤系 人文系 社会系 自然系 総合系 外国語系 健康・スポーツ科学系			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP (海外実施GSコース、国内実施GSコース)		
	基礎・発展科目	【基礎科目】 初年次セミナー 国際開発援助論 (JICA) フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンパワメント論 グローバル共生社会論 【発展科目】 Test Preparation 国際コミュニケーション演習A、B	【発展科目】 フィールドワーク方法論 Academic Communication (英)(独)(仏) Academic Writing (英)(独)(仏) 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	【発展科目】 外国語実習A、B インターンシップ実習A、B フィールドワーク実習A、B	
学科専門科目	共通	発達コミュニティ概論 地域社会学		発達コミュニティ演習1	発達コミュニティ演習2
	コア・展開科目	【コア科目】 社会教育計画論 【展開科目】 非言語コミュニケーション論	社会エンパワメントプログラム 【コア科目】 障害共生教育論／コミュニティ・ジェンダー論 健康心理学 (健康・医療心理学) スポーツプロモーション論 ファッション文化論／身体表現論／生涯学習論 【展開科目】 青年心理学 家族の発達と病理1 (社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2 (社会・集団・家族心理学2) 精神生理学／ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 コミュニティ環境の心理学	【コア科目】 メディア論 【展開科目】 社会調査法A、B 社会教育課題研究 (障害共生教育論) 社会教育課題研究 (ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究 (自然共生地域支援論) 社会教育課題研究 (ボランティア学習論) ライフコースの心理学 (発達心理学) 社会教育実践論	【展開科目】 心理学的援助支援 (心理実習) 卒業研究
		【コア科目】 心理学の基礎と歩み (心理学概論) からだの構造と機能 (人体の構造と機能及び疾病) 加齢の認知心理学 (知覚・認知心理学) 【展開科目】 発達心理学 (幼・小) 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1) 非言語コミュニケーション論	心の探究プログラム 【コア科目】 健康心理学 (健康・医療心理学) 心理学調査法 (心理学研究法) 知覚と行為 (知覚・認知心理学) 【展開科目】 児童の発達と学習／青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学 (神経・生理心理学) 臨床心理学 (臨床心理学概論) 心理面接論 (心理学的支援法)／深層心理学 家族の発達と病理1 (社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2 (社会・集団・家族心理学2) 心理学実験法／心理学観察法／発達アセスメント (心理的アセスメント)／心理学統計法A、B／障害児発達学 (障害者・障害児心理学)／臨床発達支援学1、2／認知コミュニケーション論 (知覚・認知心理学)／ジェンダー社会文化論 社会心理学 (社会・集団・家族心理学)	【コア科目】 心理学研究実践A 心理学研究実践B (心理学研究法) 【展開科目】 社会教育課題研究 (ジェンダー問題学習論) 心の発達と教育3 (教育・学校心理学2) 初等学校教育相談 ライフコースの心理学 (発達心理学) 感情・人格心理学／中等学校教育相談 心理検査法 (心理的アセスメント) 投影法心理検査 臨床心理学演習 (心理演習) 公認心理師の職責／福祉心理学 司法・犯罪心理学／産業・組織心理学 関係行政論	【展開科目】 心理学的援助支援 (心理実習) 卒業研究
		【コア科目】 アクティブライフ概論 からだの構造と機能 (人体の構造と機能及び疾病) 加齢の認知心理学 (知覚・認知心理学) 【展開科目】 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1) 健康運動科学 非言語コミュニケーション論	アクティブライフプログラム 【コア科目】 障害共生教育論／健康心理学 (健康・医療心理学) 運動心理学／スポーツプロモーション論／身体運動の文化史 【展開科目】 青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学 (神経・生理心理学)／心理学統計法A、B 身体機能の適応／加齢の健康行動科学 人の動きの計測と制御／身体運動のダイナミクス 身体マネジメント研究／環境保健学／応用身体運動科学 認知コミュニケーション論 (知覚・認知心理学) コンテンポラリーダンス／コミュニティ環境の心理学 メディア社会文化論	【展開科目】 社会調査法A、B 社会教育課題研究 (障害共生教育論) 社会教育課題研究 (ジェンダー問題学習論) 中等学校教育相談 アクティブライフ演習 身体運動科学実験	卒業研究
		【コア科目】 心理学の基礎と歩み (心理学概論) 音楽文化史 民族音楽学 社会教育計画論 【展開科目】 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1) 非言語コミュニケーション論	ミュージックコミュニケーションプログラム 【コア科目】 障害共生教育論／サウンドデザイン 日本文化交流論／身体表現論 【展開科目】 児童の発達と学習／青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学 (神経・生理心理学) 臨床心理学 (臨床心理学概論)／身体機能の適応／声の表現 シアトリカル・アート論／民族音楽演奏演習1、2 民族音楽演奏特別演習／音楽集団活動論1、2 器楽アンサンブル1、2／ミュージックセオリー&アナリシス 声楽表現演習／ピアノ演奏演習／声楽アンサンブル1、2 芸術文化表象論／コンテンポラリーダンス	【コア科目】 音楽作品研究 【展開科目】 社会教育課題研究 (ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究 (ボランティア学習論) 中等学校教育相談 声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 芸術表現演習	卒業研究
		【コア科目】 心理学の基礎と歩み (心理学概論) 創造の発想とプロセスA、B 【展開科目】 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1) 非言語コミュニケーション論	アートコミュニケーションプログラム 【コア科目】 知覚と行為 (知覚・認知心理学)／身体表現論／表現の科学 空間造形論／絵画アート論／ファッション文化論 身体・創造・創発 【展開科目】 空間アート実践／絵画アート実践／視覚文化論 芸術文化表象論／メディア社会文化論 コンテンポラリーダンス	【コア科目】 メディア論／デザイン論 【展開科目】 社会教育課題研究 (ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究 (ボランティア学習論) 芸術表現演習／芸術批評演習 表現の科学演習／ダンスと科学 デザイン演習	【展開科目】 映像・メディア論演習 卒業研究

(注) 2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

環境共生学科

		1年次	2年次	3年次	4年次				
科目 教養		基盤系 人文系 社会系 自然系 総合系 外国語系 健康・スポーツ科学系							
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）						
	基礎・発展科目	【基礎科目】 初年次セミナー 国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバウメント論 グローバル共生社会論 【発展科目】 Test Preparation 国際コミュニケーション演習 A、B	【発展科目】 フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	【発展科目】 外国語実習 A、B インターンシップ実習 A、B フィールドワーク実習 A、B					
学科専門科目	共通	環境共生学概論1、2、3 地球環境学	途上国農村地域開発論 数理的問題解決法						
	コア・展開科目	【共通専門基礎科目】 物理学入門 力学基礎1、2 電磁気学基礎1、2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1、2 基礎有機化学1、2 生物学概論A1、A2 生物学各論A1、A2 生物学各論C1、C2 基礎地学1、2 線形代数1、2、3、4 微分積分1、2、3、4 数理統計1、2 【展開科目】 からだの構造と機能 （人体の構造と機能 及び疾病）	環境自然科学プログラム 【コア科目】 環境物理学 A、B 環境物質科学 A、B 環境生命科学 A、B 環境地球科学 A、B 数理科学基礎 数理科学入門（統計系） 数理科学入門（解析系） 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 環境基礎科学実験 A（主に地学） 環境基礎科学実験 B（主に生物学） 環境基礎科学実験 C（主に化学） 市民科学教育論	【展開科目】 地球環境物理学 生物多様性科学 環境資源植物科学 環境数値解析 野外生物学実習 【共通専門基礎科目】 物理学実験 量子力学基礎 相対論基礎	【展開科目】 環境基礎物理学 A、B 地球環境変動史 生態学 環境生理学 分子生物学 環境生命化学 【展開科目】 環境応用科学実験 B （生物環境） 環境応用科学実験 C （物質環境） 環境応用科学実験 D （環境物理） 環境基礎科学演習1、2	【展開科目】 環境物理学特別 演習1 環境物理学特別 演習2 卒業研究			
		【共通専門基礎科目】 物理学入門 力学基礎1、2 電磁気学基礎1、2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1、2 基礎有機化学1、2 生物学概論A1、A2 生物学各論A1、A2 生物学各論C1、C2 基礎地学1、2 線形代数1、2、3、4 微分積分1、2、3、4 数理統計1、2		【コア科目】 数理科学基礎 数理科学入門（統計系） 数理科学入門（代数系） 数理科学入門（幾何系） 数理科学入門（解析系） 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 環境物理学 A、B 環境物質科学 A、B 環境生命科学 A、B 環境地球科学 A、B 環境社会学 環境共生史	【共通専門基礎科目】 量子力学基礎 相対論基礎 【展開科目】 環境数値解析		【展開科目】 計算代数 A、B 環境モデル解析 A、B かたちの数理 A、B 数理科学研究 A、B データ解析 A、B 環境基礎科学演習1、2		
		【共通専門基礎科目】 力学基礎1、2 熱力学基礎 基礎有機化学1、2 生物学概論A1、A2 線形代数入門1、2 微分積分入門1、2 数理統計1、2 法律学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学		環境数理科学プログラム 生活共生科学プログラム 【コア科目】 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論 A、B こども環境論 環境社会学 グローバル都市地域論 環境共生史 里山環境学	【展開科目】 衣環境論 A 衣環境論 B 食環境論 A、B アプライアンス環境論 スマートライフサイエンス 環境政策論 環境システム設計論 地域景観生態論 都市地域居住環境論 環境保健学 環境・健康リスク論 社会保障論 地域空間システム論 地域社会共生論 身体機能の適応 里山保全論		【展開科目】 家族の発達と病理1 （社会・集団・家族心理学1） 家族の発達と病理2 （社会・集団・家族心理学2） 加齢の社会心理学 （社会・集団・家族心理学） ファッション文化論	【展開科目】 環境形成科学実験 A、B 環境形成科学実習 生活環境調査法 環境形成科学実験実習 環境形成科学演習1A、2A	卒業研究
		【共通専門基礎科目】 法律学 経済学 政治学 人文地理学 外国史 社会学 日本史 倫理学 【展開科目】 文化人類学 国際関係論 社会教育計画論		社会共生科学プログラム 【コア科目】 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論 A、B こども環境論 環境社会学 グローバル都市地域論 社会環境思想史 環境共生史 グローバル開発論	【展開科目】 環境政策論 地域景観生態論 環境法 グローバル平和論 福祉社会環境史 グローバル政治経済史 地域空間システム論 社会文化環境論 地域社会共生論 地域復興政策論		【展開科目】 フィールドワーク実習 近現代政治思想論 ジェンダー社会文化論 グローバル正義論 社会共生史 社会保障論 生涯学習論	【展開科目】 環境形成科学演習 1A、1B、1C、2A、2B、2C 社会教育実践論	卒業研究

（注）2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

子ども教育学科

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養		基盤系 人文系 社会系 自然系 総合系 外国語系 健康・スポーツ科学系			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）		
	基礎・発展科目	【基礎科目】 初年次セミナー 国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンパワメント論 グローバル共生社会論 【発展科目】 Test Preparation 国際コミュニケーション演習A、B	【発展科目】 フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	【発展科目】 外国語実習A、B インターンシップ実習A、B フィールドワーク実習A、B	
学科専門科目	共通	子ども教育学概論 教育原理（世界と日本の学校教育） 保育原理（世界と日本の乳幼児教育）		子ども教育学演習1、2	子ども教育学演習3、4
	コア・展開科目	【コア科目】 教職論（幼・小） 発達心理学（幼・小） 教育経営学（幼・小） 初等算数論 初等図工論 乳幼児心理学 子どもの食と栄養 乳幼児と健康 乳幼児と環境 乳幼児と言葉 乳幼児と表現（音楽） 乳幼児と表現（造形） 乳幼児と人間関係 【展開科目】 特別支援教育入門（幼・小） 社会的養護 社会的養護内容演習 乳児心理学演習 子ども家庭支援論 観察実習Ⅰ 社会教育計画論 乳幼児と家庭	【コア科目】 児童の発達と学習 教育行政学（幼・小） 初等カリキュラム論 初等国語科教育論 初等算数科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等音楽科教育論 初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等道徳教育論 初等教育方法学 （情報通信技術の活用を含む） 初等国語論 初等社会科論 初等理科論 初等生活科論 初等音楽論 初等家庭科論 初等体育論 初等英語論 【展開科目】 グローバル教育演習（教育制度） グローバル教育演習（教育方法学） 障害共生教育論 発達障害心理学 （障害者・障害児心理学） 発達障害と共生社会1 発達障害と共生社会2 障害児発達学 （障害者・障害児心理学） 肢体不自由者心理・生理・病理 支援教育臨床学 臨床発達支援学1 臨床発達支援学2 児童青年精神医学 （精神疾患とその治療） 言語発達と教育1 （学習・言語心理学2） 言語発達と教育2 （学習・言語心理学3） 障害とリハビリテーション 観察実習Ⅱ 学校インターンシップⅠ 生涯学習論 社会認識実践研究	【コア科目】 教育史（幼・小） 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 総合的な学習の指導法（小） 初等特別活動指導論 初等生徒指導論 （進路指導を含む） 初等学校教育相談 【展開科目】 グローバル教育文献演習 比較教育システム論 特別支援教育総論 知的障害の生理・病理 知的障害支援学 発達障害教育論 肢体不自由教育論 障害児支援学概論 数理認識実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップⅡ 社会教育実践論	【展開科目】 教育・保育実践演習 （乳幼児教育） 特別支援教育実地研究 学校インターンシップⅢ 教職実践演習（幼・小） 卒業研究
		コース選択	【コア科目】 教育行政学（幼・小） 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究（健康Ⅰ） 保育内容研究（健康Ⅱ） 保育内容研究（人間関係） 保育内容研究（環境） 保育内容研究（造形表現） 保育内容研究（音楽表現） 保育内容研究（児童文化と言葉） 初等教育方法学（情報通信技術の活用を含む） 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論 【展開科目】 グローバル教育演習（教育制度） グローバル教育演習（教育方法学） 発達障害心理学（障害者・障害児心理学） 発達障害と共生社会1、2 障害児発達学（障害者・障害児心理学） 社会福祉論 幼児心理学演習 観察実習Ⅱ 学校インターンシップⅠ 生涯学習論 社会認識実践研究	【コア科目】 教育史（幼・小） 乳幼児教育内容・方法論 乳幼児理解と教育相談 初等学校教育相談 子どもの保健と健康 【展開科目】 グローバル教育文献演習 比較教育システム論 特別支援教育総論 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップⅡ 社会教育実践論 数理認識実践研究	【展開科目】 学校インターンシップⅢ 教職実践演習（幼・小） 教育・保育実践演習 （乳幼児教育） 卒業研究

（注）2年次の始めにコースを選択します。

Faculty Members

教員紹介

グローバル文化学科

地域文化系プログラム

板倉史明 教授

映画学

映画学の専門知識を基礎にして日本映画を研究しています。映画フィルムの保存や復元に
関する活動も行っています。

伊藤友美 教授

東南アジア地域研究、タイ社会史

20世紀以降のタイをはじめとする上座仏教諸
国において展開する社会運動・宗教・女性の
問題について研究しています。

長 志珠絵 教授

日本近現代史、文化研究、ジェンダー史

歴史学の研究者でジェンダー史研究も。主に
戦前戦後の日本（ですので、植民地も含めま
す）で、文化的社会的現象を扱います。

小澤卓也 教授

ラテンアメリカ史、南北アメリカ関係史、食文化史、
ホラー映画研究

マイノリティや食の視点から歴史学の再構築
を目指しています。

衣笠太郎 准教授

ヨーロッパ近現代史、ドイツと中東欧の歴史

ナショナリズムや強制移住といったトピック
に注目しながら、ドイツや中東欧の境界地域
に関する近現代史を研究しています。

合原織部 助教

社会人類学、民俗学

アジアの山村を対象に、人々と自然の関係性
を研究しています。近年の社会や自然環境の
変動が、現地の複数種の関係性に及ぼす影響
を探究しています。

昆野伸幸 教授

日本の思想の歴史的研究

おもに20世紀前半の時期における日本のナ
ショナリズムと宗教（とくに神道）との関係に
ついて研究しています。

貞好康志 教授

東南アジア地域研究、人間・環境学

インドネシアなど東南アジアの歴史や文化の
研究。同時に、人類の未来に日本と東南アジ
アの経験や智慧をうまく活かす方策の探究。

橋 誠 教授

歴史学、モンゴル研究

モンゴル国、中国（内モンゴル）、ロシア（ブ
リヤート）にまたがるモンゴル民族の近現代
における歴史と文化を研究しています。

谷川真一 教授

社会学、現代中国研究

現代中国の政治と社会について研究していま
す。特に文化大革命などの政治・社会運動、
政治体制の変容などに関心を持っています。

中村麻美 講師

イギリス文学、ユートピア・ディストピア、

サイエンス・フィクション

現代のユートピア・ディストピア小説におけ
る絶望や希望がどのように表現されているか
を分析し、社会的な想像力の詩学を探究し
ます。

深川宏樹 准教授

文化人類学、社会人類学、オセアニア地域研究

人類学の異文化理解の原論と、我々にとって
他なる人間概念と社会性の研究を行い、人間
の変身・変容可能性をテーマとしています。

深町 悟 准教授

イギリス文学、特に政治的背景の強いもの

19世紀後半から第一次大戦ごろの英国近未
来戦争小説（侵攻小説）が英国内、あるいは
海外でどのような影響を与えたかを研究して
います。

異文化コミュニケーション系

プログラム

井上弘貴 教授

政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史

19世紀末から20世紀のアメリカ合衆国の政
治、社会、都市について、政治学と思想史の
2つの方向から研究をおこなっています。

梅屋 潔 教授

社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学

死霊、呪詛などを中心に、望ましくない現象
がなぜ起こるのかという「災因論」と、その逆
の「福音論」、呪詛と祝福の民族誌が私のテー
マです。

大石侑香 准教授

社会人類学、北極地域研究

人間と自然のかかわりあいに関心があり、自
然環境や社会経済の変化に対する人々の文化
生態適応について研究しています。

岡田浩樹 教授

文化人類学、越境・多文化研究、宇宙人類学

グローバル化に伴う移民・越境と多文化化の
問題、また宇宙開発技術と社会・文化の関係
に関しJAXAと共同研究を進めています。

辛島理人 准教授

国際交流、観光、開発援助など経済と文化の関係
アジア太平洋における文化交流を、日本を結
節点にして、脱植民地化、移動・移民、経済
発展、冷戦といった視点から考えています。

齋藤 剛 教授

文化人類学、中東研究

多様な宗教、民族の人々が混在する中東の一
角をなすモロッコに暮らす人びとの生活、宗
教、社会関係などについて研究しています。

下條尚志 准教授

歴史人類学、東南アジア地域研究

ベトナム、東南アジアを中心に、戦争や社会
主義を経験した人々の生き残る術とローカル
な秩序の作り方を研究しています。

中條健志 講師

移民研究、地域研究（ベルギー）、社会言語学

メディアや政治の世界で「移民」がどのように
語られてきたかについて、批判的談話分析の
手法を用いて研究しています。

塚原東吾 教授

科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学

ケイタイが無かったら、キミの生活はどうな
る？ 国際政治は「核」で動いている。文教科
からそこに、「直球勝負」で挑むのだ！

土田千愛 講師

移民・難民研究、多文化共生論

日本を中心に、外国人の受け入れについて研
究しています。特に、難民政策や地域の多文
化共生の取り組みに着目しています。

David Adebahr 講師

国際政治理論、日本政治

太平洋の国際関係を研究しています。特に、
対外政策責任者を重視した上、外交政策決定
過程などの課題に取り組んでいます。

中村 覚 教授

国際政治、中東政治、平和・安全保障

中東を主な事例に新興・途上国地域における
国際政治を研究しています。途上国に適する
紛争予防の政策を考えています。

新川匠郎 准教授

政治制度論、ドイツ語圏研究

ドイツ語圏を中心に、経済政策や移民難民政
策など各種政策が政治制度（選挙や議会）を
介して決まる過程について研究しています。

安岡正晴 教授

現代アメリカ政治、比較公共政策

米国など先進諸国の政策（人種・移民、経済、教育、福祉、医療、税制、環境エネルギー、メディア政策など）を比較研究しています。

現代文化システム系プログラム

青山 薫 教授

社会学、ジェンダー／セクシュアリティ、

移住・移民、調査方法論

「男女」のような二分法を批判的に考察するという大テーマの下、性的マイノリティ、ケア・性労働、国境を越える移動を調査研究。

池田直樹 助教

社会学説史

主に20世紀のアメリカを中心に、同時代の思想的、政治的、文化的文脈を踏まえつつ社会学という学問の意義を検討しています。

石田圭子 教授

美学・芸術論・表象文化論

私の研究テーマは、芸術と社会との関わり、とりわけ芸術と政治の関係について表象・思想史・歴史的観点から考察することです。

磯谷有亮 講師

西洋美術史、写真史

19～20世紀の主にフランスの写真を、美術、グラフィックデザインや、印刷出版文化との関わりに着目して研究しています。

上野成利 教授

政治思想・社会思想史

理性と暴力、主体と権力、自由と公共性など、政治思想・社会思想史上の重要なテーマをめぐって、哲学的な考察を試んでいます。

岡本佳子 准教授

舞台芸術学、西洋音楽史、中東欧文化研究

ハンガリーを中心とする近現代の音楽と舞台芸術について、作品分析とともに当時の文学や思想との関連から研究しています。

小笠原 博毅 教授

カルチュラル・スタディーズ

メディアとスポーツを「スペクタクル」をキーワードに連結させ、そこに現れる憎悪や差別に対峙する文化的技術を模索しています。

高田映介 講師

ロシア文学・演劇、芸術と社会の関係性

19世紀ロシアの作家・劇作家チェーホフについて、文化政策と芸術の関わりを視野にいれつつ散文と戯曲作品の研究をしています。

田中 祐理子 教授

科学認識論、近現代科学史

20世紀の医学・生命科学を中心に科学の歴史を研究しつつ、「人間の認識とはなにか」という哲学的問いに取り組んでいます。

西澤晃彦 教授

社会学、貧困、社会的排除、都市

貧困や社会的排除が人に及ぼすものを、アイデンティティ（自己イメージ）や社会関係のありように特に注目して議論してきました。

箱田 徹 准教授

社会思想史、社会理論、エコロジー

環境問題や気候変動、資本主義を手がかりに、社会の前提を問い直し、別の社会の可能性を哲学的に考えます。

畠中茉莉子 講師

社会学説史、社会思想史

社会を構成するシステム（法、経済、教育、宗教など）の成立や関係について、ドイツ社会学における議論を中心に研究しています。

韓 河羅 助教

アートマネジメント、文化政策、文化芸術支援

共創型の芸術実践をフィールドに、芸術の事業現場における多様なアクターの協働について研究しています。

吉田駿太郎 講師

現代ダンス研究、身体文化

パフォーマンス・スタディーズ、アートマネジメント

現代の身体表現を用いた芸術、特にダンスの方法論と歴史を研究し、創作の力学、芸術制作の運営、および共創型の実践について議論しています。

言語情報コミュニケーション系プログラム

石田雄樹 准教授

フランス文学・思想、物語論

言語学の理論に基づいた文学作品の分析を行っています。主な関心は18世紀フランス、自己語り、幸福、翻訳です。

池澤 匠 講師

人文・社会、言語学、言語接触

ウクライナ語やロシア語を対象に、言語接触・多言語状況における言語純粋主義・規範意識・言語イデオロギーを研究しています。

康 敏 教授

情報科学、教育工学

情報通信技術の情報教育および外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。

北田 亮 教授

認知神経科学・心理物理学

外界を認識するこころの仕組みを、心理学や生理学の手法を組み合わせで調べます。

清光英成 教授

ソーシャル・コンピューティング、データ管理、

教育情報システム、社会情報システム

様々なデータを有効に活用するための情報資料構成ならびにデータ管理、ソーシャル・コンピューティングの肯定的評価と社会還元。

小松原 哲太 准教授

認知言語学、レトリック

意味の柔軟性を生かしたことばのレトリックに興味があり、認知言語学のアプローチから、比喩などの表現法を研究しています。

巽 智子 准教授

第一言語習得、心理言語学、言語学

私たちはどのように言語を身に付けるのでしょうか？心理言語学のアプローチで、文法知識の習得のメカニズムを探っています。

田中順子 教授

第二言語習得理論、応用言語学

第二言語習得理論は、人が母語を習得した後で母語以外の言語を習得する際のプロセスやメカニズムについて研究する分野です。

西田健志 准教授

コミュニケーションのユニバーサルデザイン

異なる文化や性格を有する世界中の多様な人々が気持ちよく共存できる、ITを応用したコミュニケーション環境づくりを目指します。

林 良子 教授

音声学、言語学、異文化コミュニケーション

人間のことば（母語・外国語）の音声について、心理言語学、外国語教育、脳科学、言語障害学などの観点から分析します。

牧田 快 准教授

認知心理学、神経科学、言語学

ヒトの知覚や学習といった認知機能・行動について、主に脳構造・脳機能画像法を用いて研究しています。

Michael Dean Smith 特任准教授

教育社会学、教育方針、教育の国際化、社会階層、国際交流

外国語教育、教育の国際化、持続可能な開発のための教育など、教育政策が日本社会に与える影響を研究しています。

松本絵理子 教授

認知心理学、認知神経科学

人間がどのようにして自分を取り巻く世界を認識して行動しているのかを、認知や注意を手がかりに研究しています。

三林亮太 助教

情報科学、自然言語処理

大規模言語モデル（LLM）における日本語の「読み」や音韻処理に着目し、非ローマ字言語特有の言語的特性を考慮した評価手法に関する研究をおこなっています。

南 佑亮 准教授

言語学、構文論、語法研究

言語（主に英語・日本語）の様々な構文現象について、「意味がいかに形式に反映されるか」という観点から研究しています。

南本 徹 講師

言語学、歴史言語学、印欧語研究、

古代ギリシア語研究

主に古代ギリシア語（特に方言）の研究をしています。その裏で「人間の言語はどれくらい多様であり得るのか」を考えています。

村尾 元 教授

社会システム科学、機械学習、データサイエンス

機械学習や人工知能の技術を利用して、少数の個人から社会や国際関係までの様々な集団における現象やダイナミクスを分析します。

社会エンパワメントプログラム

稲原美苗 准教授

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

後藤聡美 助教

成人学習論、ESD

福祉教育や開発教育、ESD実践の現場で、多様な人々がどのように接触・交差し、変容していくかということを探究しています。

津田英二 教授

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追う実践的研究を行っています。

大田美佐子 教授 ※

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

平芳裕子 教授 ※

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

※他プログラムとの兼任

心の探究プログラム

相澤直樹 准教授

臨床心理学、臨床心理検査（投影法）

青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

安達友紀 准教授

臨床心理学、慢性痛、ペインマネジメント

慢性痛をもつ人のより良い理解と心理支援が研究テーマです。集学的治療、催眠、認知行動療法、準備性、怒り等に関心があります。

柿沼亨祐 助教

社会心理学

他者との関わりの中で、人の認知や行動がどのように変化するのかを明らかにするために、実験法を用いて研究をしています。

加藤佳子 教授

健康心理学、健康教育

心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

岸田広平 講師

臨床児童心理学、認知行動療法

子どもに対する認知行動療法、保護者へのペアレントトレーニング、学校でのメンタルヘルス予防教育の研究と実践を行っています。

坂本美紀 教授

教育心理学

児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷冬彦 准教授

人格心理学

青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

林 創 教授

発達心理学、教育心理学

幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

山本健太 助教

障害者心理学、実験心理学、特別支援教育

自閉スペクトラム症者を対象に記憶が行動選択や感情調整に及ぼす影響について実験心理学的手法を用いて研究しています。

アクティブライフプログラム

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ史

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 准教授

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

打田篤彦 助教

社会心理学、計算社会科学

「生きやすさ」に主眼を置き、私たちと社会・物理環境の相互作用を多角的に検討し、実際の問題解決への貢献を目指しています。

片桐恵子 教授

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木伏紅緒 准教授

身体運動制御、ニューロメカニクス

筋電図や動作解析で、日常・スポーツ動作の入出力関係を捉え、運動パフォーマンスを支える神経筋制御機構を定量的に解明します。

木村哲也 准教授

身体運動システム論

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 教授

運動生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行なっています。

高田義弘 准教授

運動生理学（身体コンディショニング）

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見和至 教授

運動・スポーツ心理学

「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探索しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探索しています。

原田和弘 教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

ミュージックコミュニケーション

プログラム

大田美佐子 教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡野真裕 准教授

認知科学、パフォーマンス科学

わざの修得・熟達に重要なこととは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

谷 正人 教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントウル演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

田畑暁生 教授 ※

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

津田英二 教授 ※

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

野中哲士 教授 ※

発達科学、生態心理学

わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

余田有希子 講師

音楽音響制作

現代の様々な環境やテクノロジーに応じた「音楽・音響」の表現の可能性について、実践と理論の両面から研究しています。

※他プログラムとの兼任

アートコミュニケーション

プログラム

上田 香 准教授

デザイン学、染織・テキスタイルの創作と研究

デザインとは、美しさを伴う問題解決策です。テキスタイルを通して、実践的で未来を見据えたデザインを制作、研究しています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

清水大地 助教

認知科学、身体性科学

魅力的な表現や振る舞いが生み出される過程について、個人・他者・環境との関わり合いに着目し、フィールドワーク・実験等の手法により研究しています。

関 典子 准教授

舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

舞踊は身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授

発達科学、生態心理学

わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

平芳裕子 教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

環境自然科学プログラム

蘆田弘樹 教授

光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学

植物、藻類、微生物の光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産へ応用する研究を行っています。

丑丸敦史 教授

植物生態学、生物多様性科学

花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 教授

生物有機化学

生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授

地球環境、環境地学

地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。

近江戸 伸子 教授

環境資源植物科学

資源植物を対象に新機能の開発や利用、遺伝特性、環境適応について、ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。

黒澤耕介 准教授

惑星科学、宇宙生物学、衝突物理学

初期の太陽系は「天体重爆撃」に晒されました。この時代の惑星、衛星、小惑星の表層初期進化を実験的に調べています。

小谷野由紀 准教授

非線形物理学、アクティブマター

生物のような自発的に動き回るアクティブな物体やその集団について、それらに共通する物理的な性質を研究しています。

佐賀達矢 助教

市民科学、行動生態学、環境教育

ヒトが生物を利用する文化的活動やヒトにとっての自然の大切さに興味があります。スズメバチ類の生態や進化の研究もしています。

佐藤春実 教授

高分子化学、高分子振動分光学

環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究しています。

高見泰興 教授

進化生態学

昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

谷 篤史 教授

地球惑星科学、物理化学、物性物理学

物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることにより、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 教授

環境生理学、水域生態学、感染症生態学

環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

環境数理科学プログラム

エスカラ エマソン 准教授

位相的データ解析

データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発などの複雑な現象に潜む構造を抽出する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授

応用解析学

物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授

数理統計学

株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

周 怡 助教

医学統計学、生物統計学

医療研究における結論の正確性を高めるため、新しい統計手法を開発しています。データの統合と偏りの調整法を研究しています。

長坂耕作 准教授

計算機代数、計算機科学

パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

生活共生科学プログラム

井上真理 教授

衣環境学、感性工学

グローバルな視点で衣生活の環境への影響を考慮し、人の感覚を主体とした繊維製品の材料設計を提案する研究を行っています。

内山愉太 准教授

都市地域環境学、地理情報科学

国内外の都市地域の社会生態系と相互関係に着目した、多様な主体による包摂的な環境マネジメントに向けた研究を行っています。

大野朋子 准教授

緑地環境学、造園学

人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

清野未恵子 准教授

里山環境学、野生動物管理

農山村地域に暮らす多様な生き物の相互作用やそれらと人社会との関わり及び里山保全に関わる人材育成に関する研究を行っています。

佐藤真行 教授

環境経済学

環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授

環境システム工学（土木工学）

私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

福田博也 准教授

生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授

環境保健学、環境リスク論

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

湯浅正洋 准教授

食環境科学

未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

社会共生科学プログラム

井口克郎 准教授

社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題

社会保障制度を必要とする人々とそれをになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

太田和宏 教授

途上国政治経済

グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

坂井晃介 准教授

社会学理論、歴史社会学、福祉国家論

現代社会における制度や理念が成立してきた歴史的プロセスを、社会システム理論をベースに理論的かつ経験的に研究しています。

子ども教育学科

澤 宗則 教授

人文地理学、地域社会論、移民社会論

日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授

社会思想、社会学史

現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原 将也 准教授

地域研究、環境地理学、生業研究

おもにアフリカと日本の農村を対象に社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人々の暮らしを住民の視点から研究しています。

松山沙織 講師

武力紛争法、国際刑事法

国際法のうち、戦争中のルールがいつ・どこで・誰に適用されるのか、また、その違反である戦争犯罪の裁き方を研究しています。

赤木和重 教授

発達障害心理学

自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

Erkki Tapio Lassila 准教授

教師教育学、比較教育学

環境によって変わりうる教職と才能教育を、関係者のストーリーを中心に調査し、教師教育プログラムを改善しています。

岡部恭幸 教授

数理認識論、数学教育

算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

川地亜弥子 教授

教育方法学

人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

北野幸子 教授

乳幼児教育学、保育学

乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授

発達心理学

乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

田中 伸 准教授

市民性教育、社会科教育学

民主社会において、学校・授業は如何に構想できるか。主体的な社会の形成者としての市民を育てる教育のあり方を研究しています。

勅使河原 君江 准教授

美術・造形教育

美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

中谷奈津子 教授

保育学、家族関係学、子ども家庭支援論

認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

峯 恭子 准教授

音楽教育

音と身体の応答を手がかりに、わらべうた遊びやリトミック等における即興的音楽表現の教育的意義を研究しています。

村瀬瑠美 助教

身体表現、体育学、舞踊論

子どもの身体による表現と、言葉・運動・遊びの発達との関係や、身体表現におけるイメージと動きの関係について研究しています。

目黒 強 教授

児童文学、国語教育

近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

山口悦司 教授

科学教育

人々の科学の学習をインノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

山下晃一 教授

教育制度論、教育経営学

現代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾の関係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

山根隆宏 准教授

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域場で実証的かつ実践的に研究をしています。

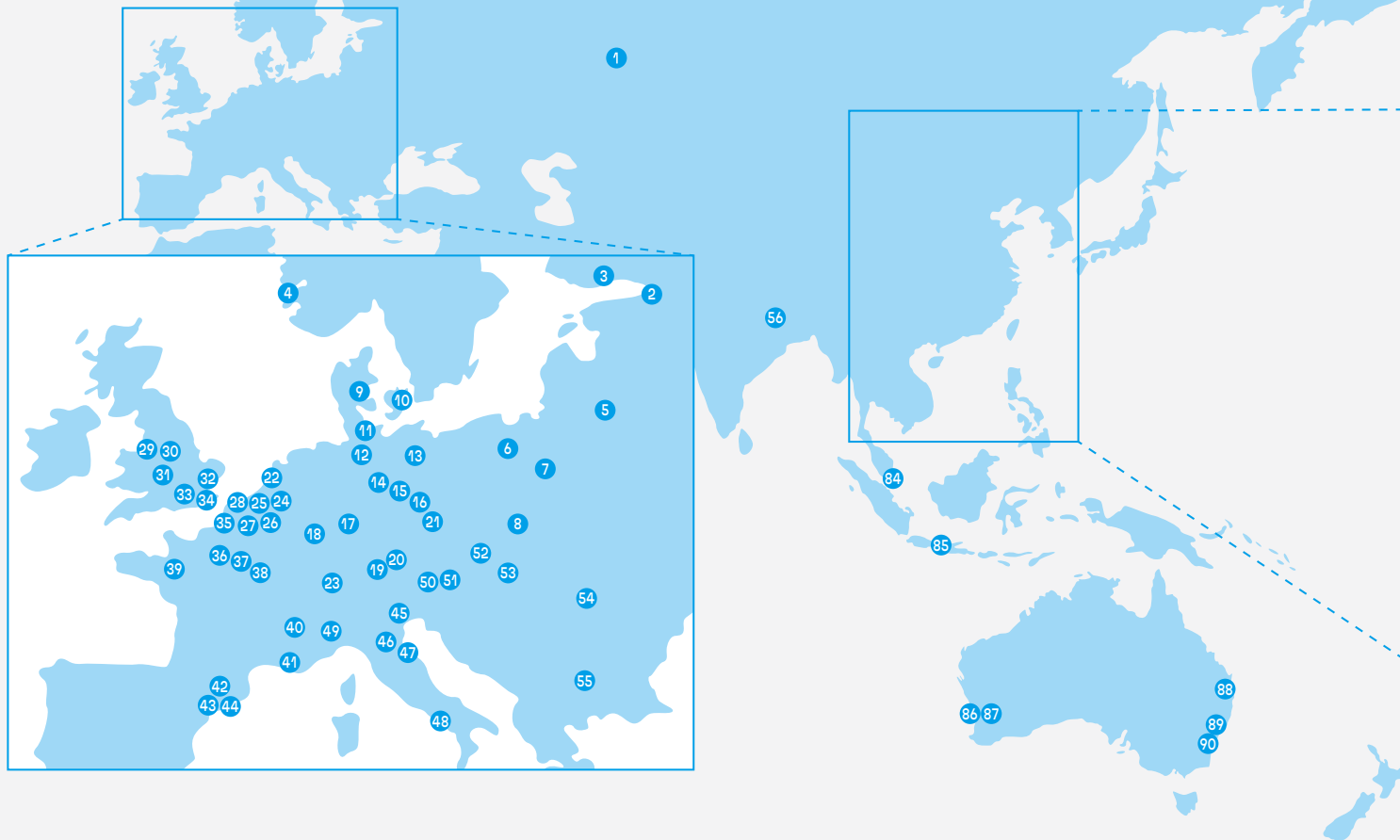
渡邊隆信 教授

西洋教育史、教育哲学

20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

International Exchange

国際交流



Partner Schools

主な協定校

交換留学生の受け入れ

国際人間科学部生は、34 国の 98 協定校に交換留学が可能です。国際人間科学部では、これらの協定校から、年間約 80 名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができます。また、本学部では在生によるチューター組織があり、留学生の来日時の手続き、学修、日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや姫路ショートトリップなどの行事や、ハイキング、花見、紅葉狩り、六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身に付けることができます。

ロシア Russia

- 1 Ural Federal University
- 2 Saint-Petersburg State University

フィンランド Finland

- 3 University of Helsinki

ノルウェー Norway

- 4 University of Bergen

リトアニア Lithuania

- 5 Vilnius Gediminas Technical University

ポーランド Poland

- 6 Nicolaus Copernicus University in Toruń
- 7 University of Warsaw
- 8 Jagiellonian University

デンマーク Denmark

- 9 Aarhus University
- 10 University of Copenhagen

ドイツ Germany

- 11 Kiel University
- 12 University of Hamburg
- 13 Free University of Berlin
- 14 Martin Luther University Halle-Wittenberg
- 15 Leipzig University
- 16 Technical University of Dresden
- 17 Technical University of Darmstadt

18 Trier University

- 19 Technical University of Munich
- 20 University of Passau

チェコ Czech

- 21 Charles University

オランダ Netherland

- 22 Leiden University

スイス Switzerland

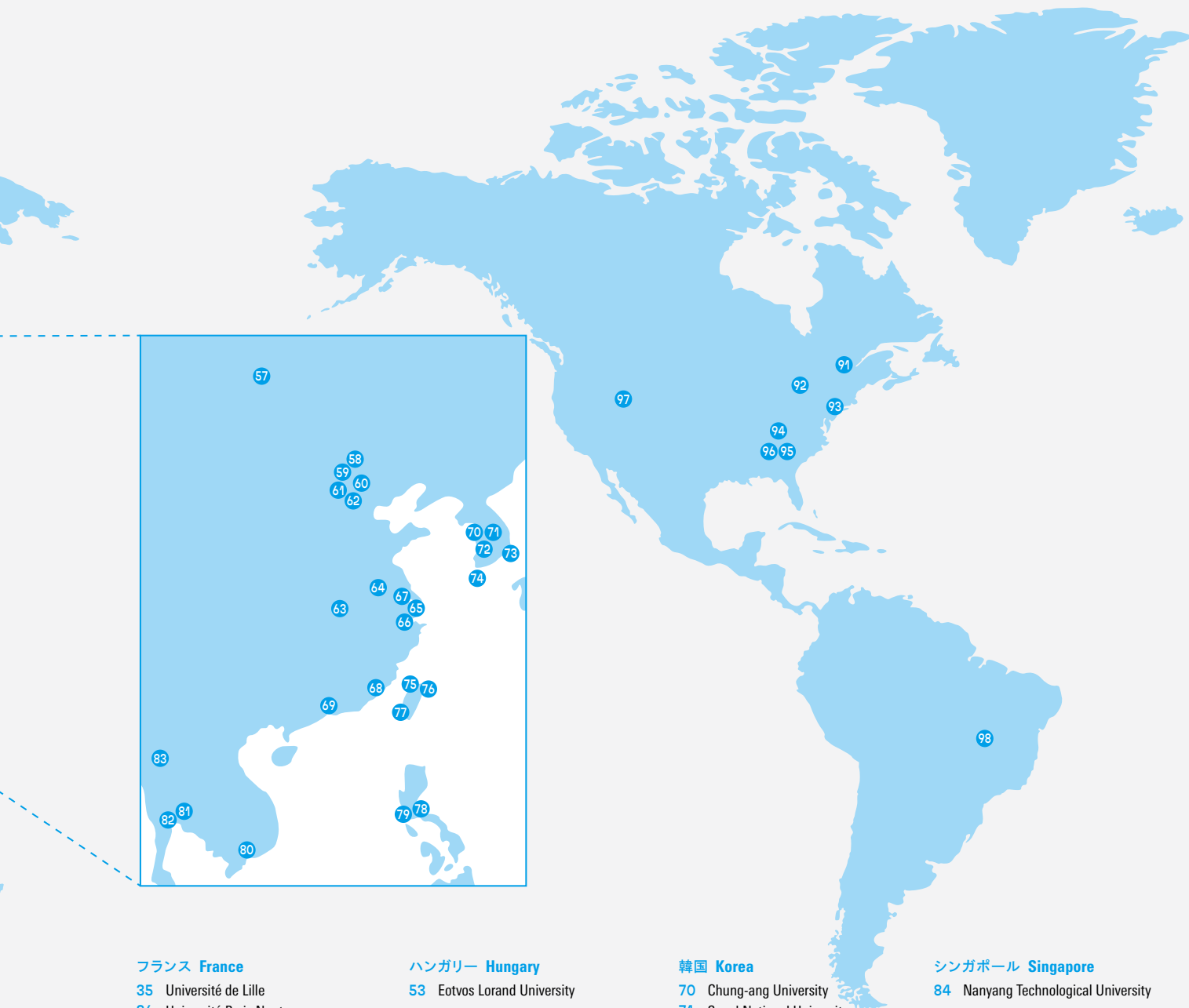
- 23 University of Basel

ベルギー Belgium

- 24 Katholieke Universiteit Leuven
- 25 Université Saint-Louis - Bruxelles
- 26 Vrije Universiteit Brussel
- 27 Université Libre de Bruxelles (ULB)
- 28 Universiteit Gent

英国 United Kingdom

- 29 The University of Manchester
- 30 The University of Sheffield
- 31 University of Birmingham
- 32 University of Essex
- 33 School of Oriental and African Studies (SOAS) University of London
- 34 University of Kent



フランス France

- 35 Université de Lille
- 36 Université Paris Nanterre
- 37 Université Paris Cité
- 38 Université Paris 4 Panthéon-Assas
- 39 Université de Rennes 2
- 40 Université Grenoble Alpes
- 41 L'Université d'Aix-Marseille

スペイン Spain

- 42 Autonomous University of Barcelona
- 43 University of Barcelona
- 44 Pompeu Fabra University

イタリア Italy

- 45 Università Ca' Foscari Venezia
- 46 Università di Bologna
- 47 Università di Bologna Campus di Forlì
- 48 Università degli Studi di Napoli "L'Orientale" UNIOR
- 49 Università di Torino

オーストラリア Austria

- 50 FH JOANNEUM University of Applied Sciences
- 51 University of Graz

スロバキア Slovakia

- 52 Comenius University

ハンガリー Hungary

- 53 Eotvos Lorand University

ルーマニア Romania

- 54 Babes-Bolyai University

ブルガリア Bulgaria

- 55 Sofia University St. Kliment Ohridski

ネパール Nepal

- 56 Tribhuvan University

モンゴル Mongolia

- 57 National University of Mongolia

中国 China

- 58 Tsinghua University
- 59 Renmin University of China
- 60 Beijing Normal University
- 61 Beijing Foreign Studies University
- 62 Minzu University of China
- 63 Wuhan University
- 64 Nanjing University
- 65 East China Normal University
- 66 Shanghai Jiao Tong University
- 67 Shanghai University
- 68 Xiamen University of Technology
- 69 The University of Hong Kong

韓国 Korea

- 70 Chung-ang University
- 71 Seoul National University
- 72 Korea Nazarene University
- 73 Pusan National University
- 74 Jeju National University

台湾 Taiwan

- 75 National Taiwan University
- 76 National Chengchi University
- 77 National Cheng Kung University

フィリピン Philippines

- 78 Ateneo de Manila University
- 79 San Beda College

ベトナム Vietnam

- 80 Vietnam National University Ho Chi Minh City, University of Social Sciences and Humanities

タイ Thailand

- 81 Kasetsart University
- 82 Thammasat University
- 83 Chiang Mai University

シンガポール Singapore

- 84 Nanyang Technological University

インドネシア Indonesia

- 85 Gadjah Mada University

オーストラリア Australia

- 86 The University of Western Australia
- 87 Curtin University
- 88 The University of Queensland
- 89 The University of New South Wales
- 90 University of Wollongong

カナダ Canada

- 91 University of Ottawa
- 92 Huron University College

アメリカ合衆国 United States

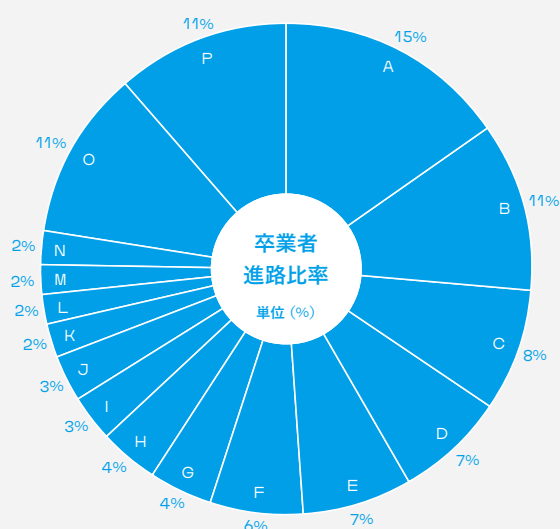
- 93 Queens College of The City University of New York
- 94 The University of Tennessee at Knoxville
- 95 University of Georgia
- 96 Georgia Institute of Technology
- 97 Utah State University

ブラジル Brazil

- 98 University of Brasilia

進路実績

グローバル文化学科 業種別 進路比率



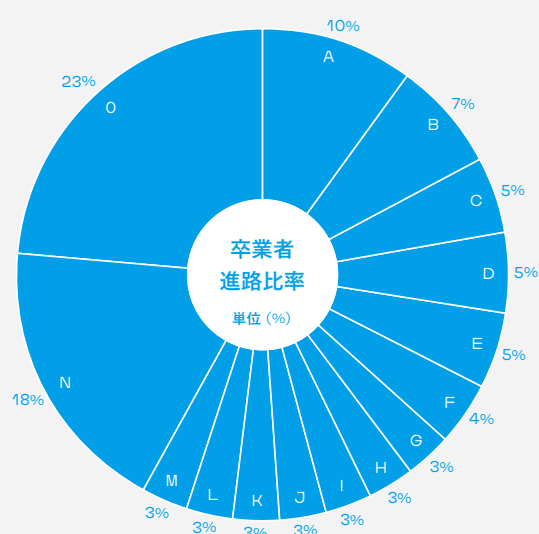
業種

- A 金融業・保険業
- B 情報通信業
- C その他のサービス業
- D 卸売業・小売業
- E その他の教育・学習支援業
- F その他の専門・技術サービス業
- G 電子部品・デバイス・電子回路製造業
- H 不動産業・物品賃貸業
- I 電気・情報通信機械器具製造業
- J 運輸業、郵便業
- K 生活関連サービス業・娯楽業
- L 電気・ガス・熱供給・水道業
- M 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業
- N 地方公務
- O 進学
- P その他

主な就職先

- 日本生命保険
- 三井住友銀行
- NTTドコモ
- 日本経済新聞社
- 日本放送協会
- マイナビ
- 日本貿易振興機構
- 住友商事
- 丸紅
- 川崎重工業
- アクセンチュア
- カルビー
- 阪急阪神不動産
- 日本電気
- 東日本旅客鉄道
- 大阪ガス
- 関西電力
- カルビー
- 大阪府庁
- 外務省

発達コミュニティ学科 業種別 進路比率



業種

- A 情報通信業
- B 地方公務
- C 金融業・保険業
- D 卸売業・小売業
- E 国家公務
- F その他の専門・技術サービス業
- G その他の教育・学習支援業
- H 運輸業、郵便業
- I 学校教育
- J 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業
- K 建設業
- L 化学工業・石油・石炭製品製造業
- M 生活関連サービス業・娯楽業
- N 進学
- O その他

主な就職先

- 西日本電信電話（NTT西日本）
- 電通総研
- 電通総研
- 三井住友銀行
- みずほ銀行
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券
- ニトリ
- ロフト
- ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ
- アシックス
- 大阪市高速電気軌道
- 阪急電鉄
- アサヒ飲料
- 大林組
- ENEOS
- USJ
- 大阪府
- 兵庫県 公立中学校教員
- 神戸市役所
- 大阪高等裁判所

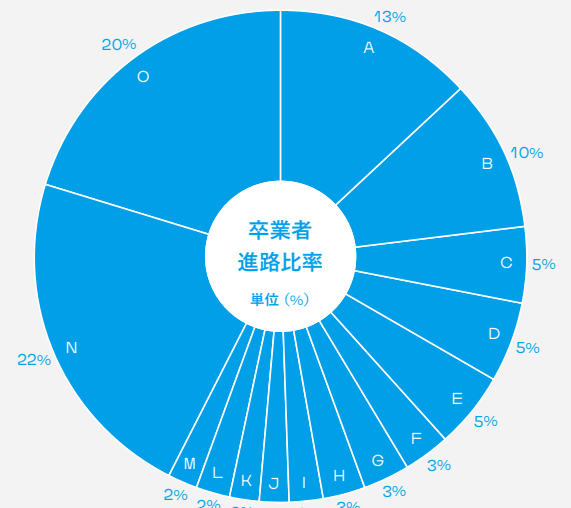
主な就職先

NTTデータ
読売新聞大阪本社
電通デジタル
アクセントチュア
ペイカレント・コンサルティング
PwCコンサルティング
商船三井
日本通運
阪急阪神不動産
三井住友銀行
パーソナルキャリア
理研ビタミン
日立製作所
ジャパンエンターテイメント
東京電力
良品計画
神戸市 教員
大阪国税局
近畿管区警察局
神戸地方財務局

業種

A 情報通信業
B その他の専門・技術サービス業
C 運輸業・郵便業
D 不動産業・物品賃貸業
E 国家公務
F 金融業・保険業
G その他のサービス業
H 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業
I 地方公務
J 電気・情報通信機械器具製造業
K 生活関連サービス業・娯楽業
L 電気・ガス・熱供給・水道業
M 学校教育
N 進学
O その他

環境共生学科 業種別 進路比率



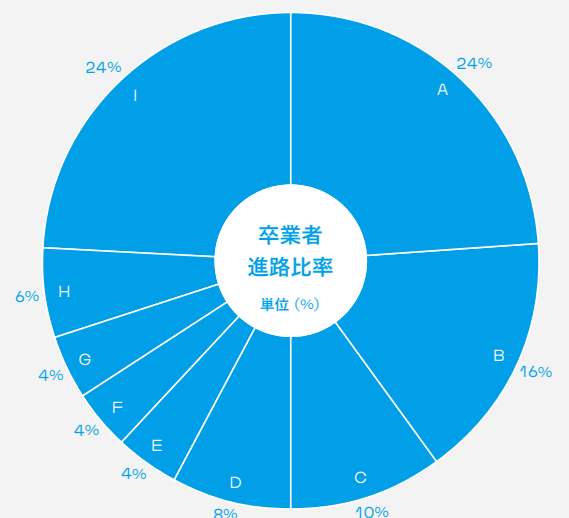
主な就職先

岡山県立小学校（教員）
京都府立小学校（教員）
兵庫県立小学校（教員）
大阪市立小学校（教員）
神戸市立小学校（教員）
姫路市立小学校（教員）
松山市立幼稚園（教諭）
国立奈良教育大学附属こども園（教員）
国立大学法人 神戸大学
日本放送協会
ベネッセコーポレーション
日本文教出版
生活協同組合コープこうべ
ダイキン工業
日本生命保険
池田泉州銀行
キャンノンマーケティングジャパン
人事院
厚生労働省
神戸市役所

業種

A 学校教育
B その他の教育・学習支援業
C 情報通信業
D 卸売業・小売業
E 金融業・保険業
F その他の専門・技術サービス業
G 国家公務
H 進学
I その他

子ども教育学科 業種別 進路比率



※小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

Admissions, Student Support

募集人員、学生支援

2027年度学生募集人員

学科	入学 定員	一般選抜		総合型選抜		学校 推薦型 選抜	私費外国人 留学生 特別選抜
		前期日程	後期日程		「志」 特別選抜		
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	アクティブライフ受験 12名 [表現領域受験] 音楽受験 12名 美術受験 8名 身体表現受験 4名	—	—	若干名
環境共生学科	80名	文化系 23名 理科系 30名	文化系 8名 理科系 9名	—	10名	—	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名

学生生活支援

充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。詳細については、神戸大学ウェブサイトの「学生生活・学生支援」(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/campus-life/>)をご覧ください。



奨学金

日本学生支援機構、民間奨学団体、地方公共団体及び神戸大学による奨学金の他、入学料免除、授業料免除の制度があります。



学生寮

修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。



健康

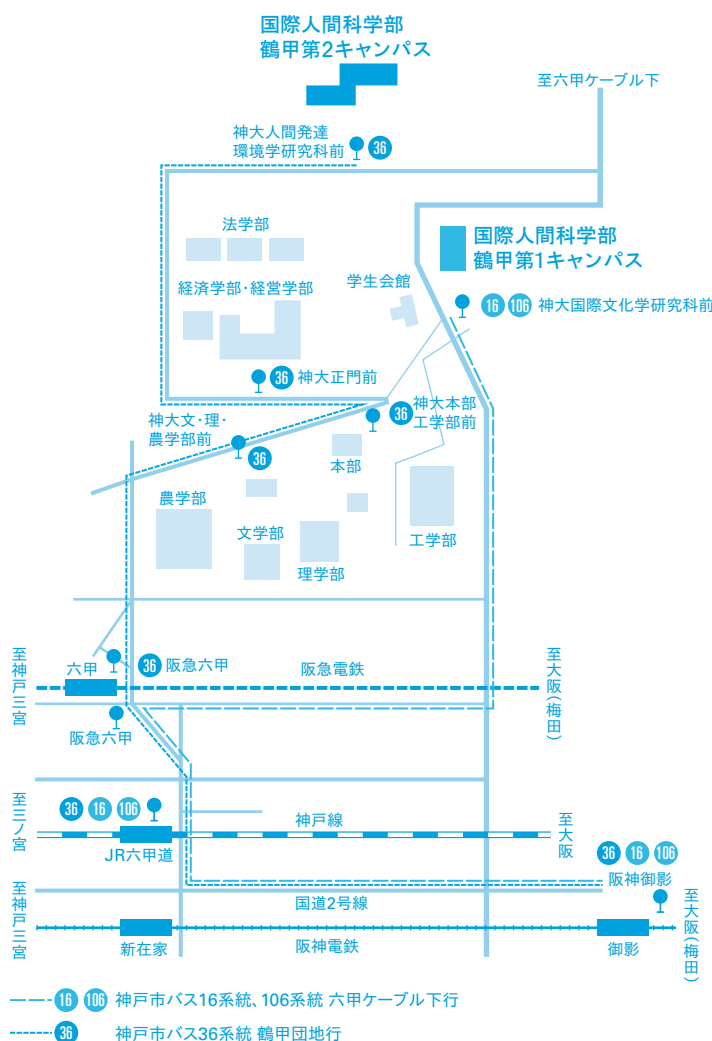
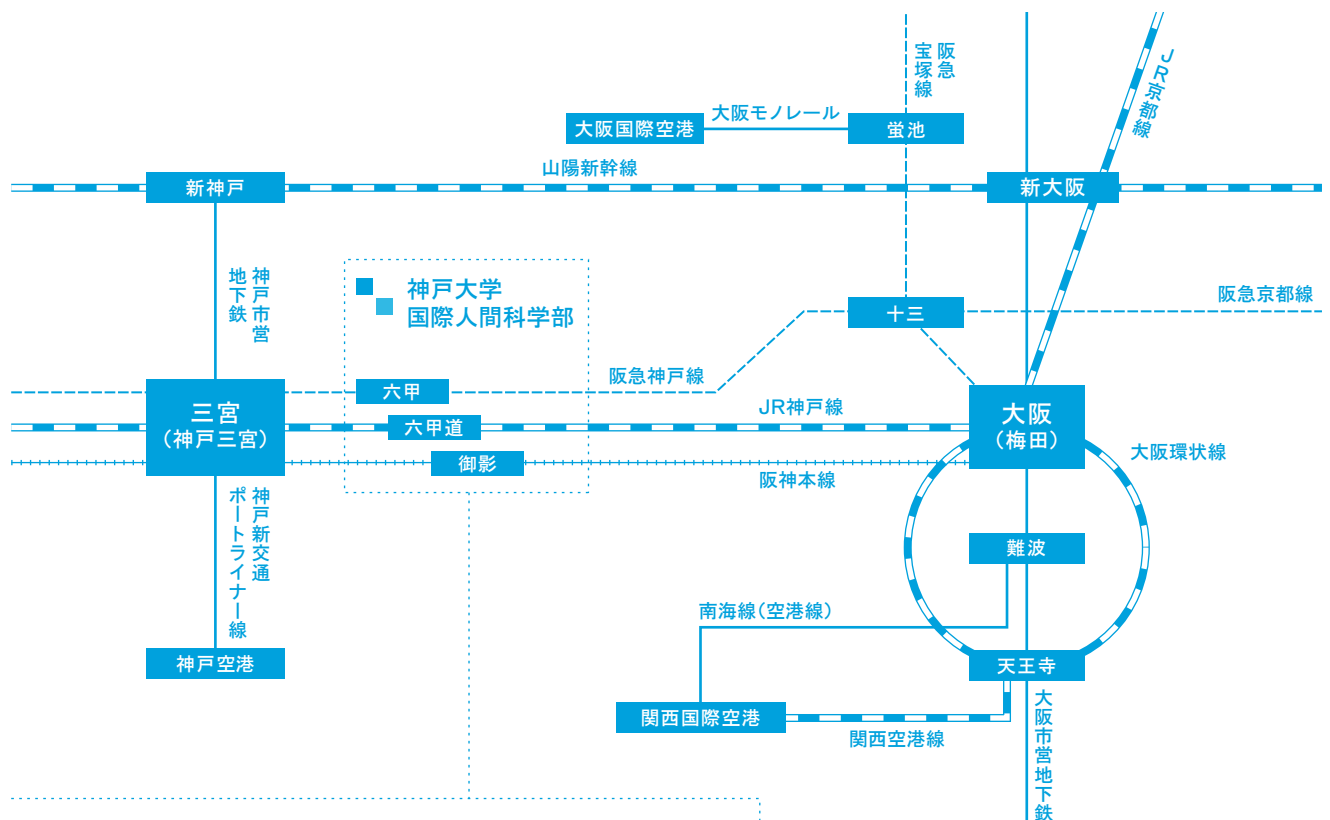
保健管理センターにおいて、医師やカウンセラーが常駐し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。



神戸大学
国際人間科学部
<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp>



ウェブサイトには、最新の情報や、イベント情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

鶴甲第1キャンパス

神戸市バス16系統、106系統「六甲ケーブル下方面」または「神戸大学鶴甲第一キャンパス東門」行に乗車、「神大国際文化学研究科前」で下車。

鶴甲第2キャンパス

神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学 国際人間科学部

鶴甲第1キャンパス

〔グローバル文化学科〕

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

電話 078-803-7515（代表）

鶴甲第2キャンパス

〔発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科〕

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11

電話 078-803-7905（代表）

<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp>

2026年6月発行

